

愛知県(県域)

1 産地の概要

<対象品目> 水稻

<産地の現状・課題>

水田作担い手農家の経営受託面積は年々増加しており、燃料の価格高騰による経営費と労働時間の増加が経営を圧迫している。(一社)日本農業機械化協会の「農業機械の省エネ利用マニュアルH27」によると、耕起作業はロータリー耕よりけん引式の作業機(スタブルカルチ等)の方が燃料消費量の削減ができ、作業時間も短くなることが示されている。

燃料消費量の削減と作業時間短縮を実証するため、ロータリー耕とけん引式作業機による耕起を比較・評価し、経営改善の技術提案をする。

2 検討体制

<愛知県組織と関係機関等の役割>

- ・ 農業経営課(事務局)
- ・ 農業革新支援センター(実証ほ調整、技術指導、栽培マニュアルと産地戦略の作成)
- ・ 普及指導センター(実証ほ調査、検討会の参加)
- ・ JAあいち経済連(技術支援、検討会の参加)
- ・ JA(調査補助)
- ・ 農業者(実証ほ管理、技術の検証)

写真 スタブルカルチによる耕起



3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
CO2・NO2 排出削減	前作残渣 処理と耕 起	<取り入れる技術> けん引式作業機利用による燃料消費量の削減
		<見込まれる効果> CO2削減(ロータリー耕に比べ10%の燃料消費量の削減)

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
前作残渣 処理と耕 起	<取り入れる技術> けん引式作業機利用による作業時間の削減
	<見込まれる効果> 作業時間35%以上削減(ロータリー耕に比べ10aあたり作業時間35%削減)

4 活動内容(予定)

<活動内容>

- ・ けん引式作業機による耕起作業効果の実証
- ・ 消費燃料量と作業時間の調査
- ・ 地域にあった耕起方法の検討